

## 2017 年度年長第 1 回牛田山登山遠足 活動報告

日 時 2018 年 1 月 29 日 (月)

- 幼児の姿
- ・体を動かすことの楽しさを感じ体力もついている。
  - ・クラスの子どもの団結力も生まれ、助け合い、思いやりする姿が多く見られる。またこれまで様々な経験を通して、新しいことに挑戦しやり遂げることに自信も生まれてきている。
  - ・ぼうけんの森で遊んだり、園庭の木々の葉や実や種で遊んだり、毎日自然に親しみ、様々な興味・関心をもって過ごしている。
  - ・山道を歩くのに慣れていない子どももいる。
- ねらい
- ・木々や景色を眺めたり、木の実や葉っぱなどを拾うなどして自然に親しんだり、自然の美しさや雄大さを感じる。
  - ・初めての山道を歩くことを楽しむ。
  - ・自分たちの力で目的地まで登った達成感を味わう。

### 事前準備と配慮

- ・事前の下見をし、子どもの体力に合わせたルートを決める。ゴミ拾いや飛び出した枝や根っこを切るなどして当日子ども達が安全に通れるようにしておく。また、咲いている花や葉や木の実やイノシシの掘った跡など様々なことを事前に把握しておき、歩きながらその都度紹介できるようにしておく。
- ・山道での子ども達の様子を予想し、休憩ポイント・おやつポイントなどを決めて準備をする。
- ・目的地で自由に遊ぶ範囲や伝える注意事項などを予め決め、保育者みんなが理解しておくようにする。
- ・道沿いに育っていた木の実などを拾って帰り、紹介したり飾ったりすることで子どもたちが自分たちも行くことを楽しみに待てるようにする。
- ・目的地での注意事項などを地図にして予め伝え、子ども達が楽しみながら気をつけられるようにする。
- ・当日の持ち物や服装など、保護者に状況が分かりやすいよう手紙で知らせる。

- 準備物
- ・救急道具、ポイズンリムーバー、虫刺され薬、着替え (パンツ、ズボン)、タオル、ティッシュ、携帯電話、カメラ、袋 (ゴミや拾った木の実などを入れる)、虫よけ、おやつ (あめ)、水 (ペットボトル 2ℓ×2 本)、予備のお茶

- 活動内容
- ・菊間さんのガイドで道なき道を藪漕ぎし、牛田山登山道、『Uターン広場』をめざして歩いて登る。
  - ・『Uターン広場』でおにぎりを食べ、山で遊んだりどんぐりなどを集めたりして、楽しむ。

参加人数 そら組 28 名 つき組 26 名 ほし組 28 名 計 82 名

引率 担任 3 名、高田園長、岡野 (ほし)、石川 (そら)、小原 (つき)

園児持ち物 昼食 (おむすびのみ)、お茶の入ったペットボトル (リュックに入る大きさ)、おてふき、タオル、ビニール袋、

服装 長袖、長ズボン、帽子 (全て黒っぽくないもの)、歩きやすい履きなれた靴、タオル

## プログラム

時間	活動内容	備考
9:20	登園・荷物確認	菊間さん紹介
9:40	集まり（2便の子どもたちを迎える体制・排泄） 全員集合	
9:50	お祈り・注意事項確認	準備体操 転び方の練習
10:05	幼稚園出発登山口へ（牛田山荘下） 登山口着	
11:05	牛田山登山スタート（ウォータースライダールート） クラス毎に歩く（ほし→つき→そら） 途中1箇所の休憩ポイントで休む、 お茶を飲む、おやつを食べる（G○G○広場）	ウラジロのグライダー、バッタづくり G児、嘔吐のため園長と二人で下山
11:30	目的地（Uターン広場）到着 周りを散策する	
11:40	トイレ	気温が低く、昼食場所のUターン広場を、予定より30分早く出発。
12:10	昼食（おにぎり・お茶）おやつ：あめ クラス毎で食べたら遊ぶ	
13:00	下山準備（荷物確認） 下山スタート（ほし→つき→そら）	
13:00	幼稚園到着	

## 当日の様子

### ① 出発

当日は曇りで気温も上がらず、身体を動かしていなければ体が冷えてくる状況であった。まずは園庭に集合し、菊間さんと挨拶を交わし、士気を高めて準備運動、転んだ時の受け身のとり方、選択可能な谷側でなく山側に倒れること、藪に向かって石など硬いもの投げないことなどを確認した。





## ② 登山道入り口 ウォータースライダー～縦走登山道

牛田山荘入口までは広島女学院牛田キャンパス構内は歌声や笑い声が絶えず、余裕の表情であったが、二又川の源流沿いに谷筋から尾根筋に入り、道なき道を歩き出すと笑い声は消え、『おい、ここ気を付けろよ！』『イノシシの掘った跡があるぞ！』と真剣な面持ちで藪と格闘する姿が見られた。今回選択した牛田山荘下～ウォータースライダールートは牛田山縦走登山道に直結するかなり傾斜のきつい登りであったが、途中『コナラゆみこさん』（コナラの大木）や『リョウブのあらおさん』（リョウブの大木）と出会いながら進んでいく。中腹でウラジロの群生に出会い『バッタの木だ！』『グライダーにもなるね』と、自分たちのフィールド“ぼうけんのもり”でもおなじみの植物を見て少し緊張がほぐれたようだった。

## ③ 縦走登山道～おやつ休憩




けもの道を踏破し、縦走登山道に出ると、子どもたちの顔つきも和らいだ。出発から1時間、おやつタイムとする。そのためにみんながそれぞれに腰を下ろした途端、G児が嘔吐し、S児のリュックにかかってしまった。流行性の嘔吐下痢症が多い季節であり、嘔吐物からもそれらしい気配を感じたため、他児を遠ざけ、G児とS児の心と身体のケアをしながら、2次感染を防ぐべく、荷物と衣服等の処理をした。リュックの内部には浸透していないようであったが、念のため内部を確認。リュック内のS児のお弁当は、ビニール袋とバンダナと二重になっていたため、そのビニール袋から出してクラス担任のリュックへ移した。サイドポケットの水筒にはかかっていたので、予備のお茶をS児に渡した。G児をはげましかったわる姿、声をかけるクラスの仲間。（後のお弁当タイムでは、『G児が元気になりますように』と子どもたちが祈っていたとの報告を受けている。）G児の様子を見ながら、ここで引き返すことを選択、園長と二人で下山することとなった。他児たちは、G児の分までみんなで力を合わせて山頂手前の目的地をめざした。

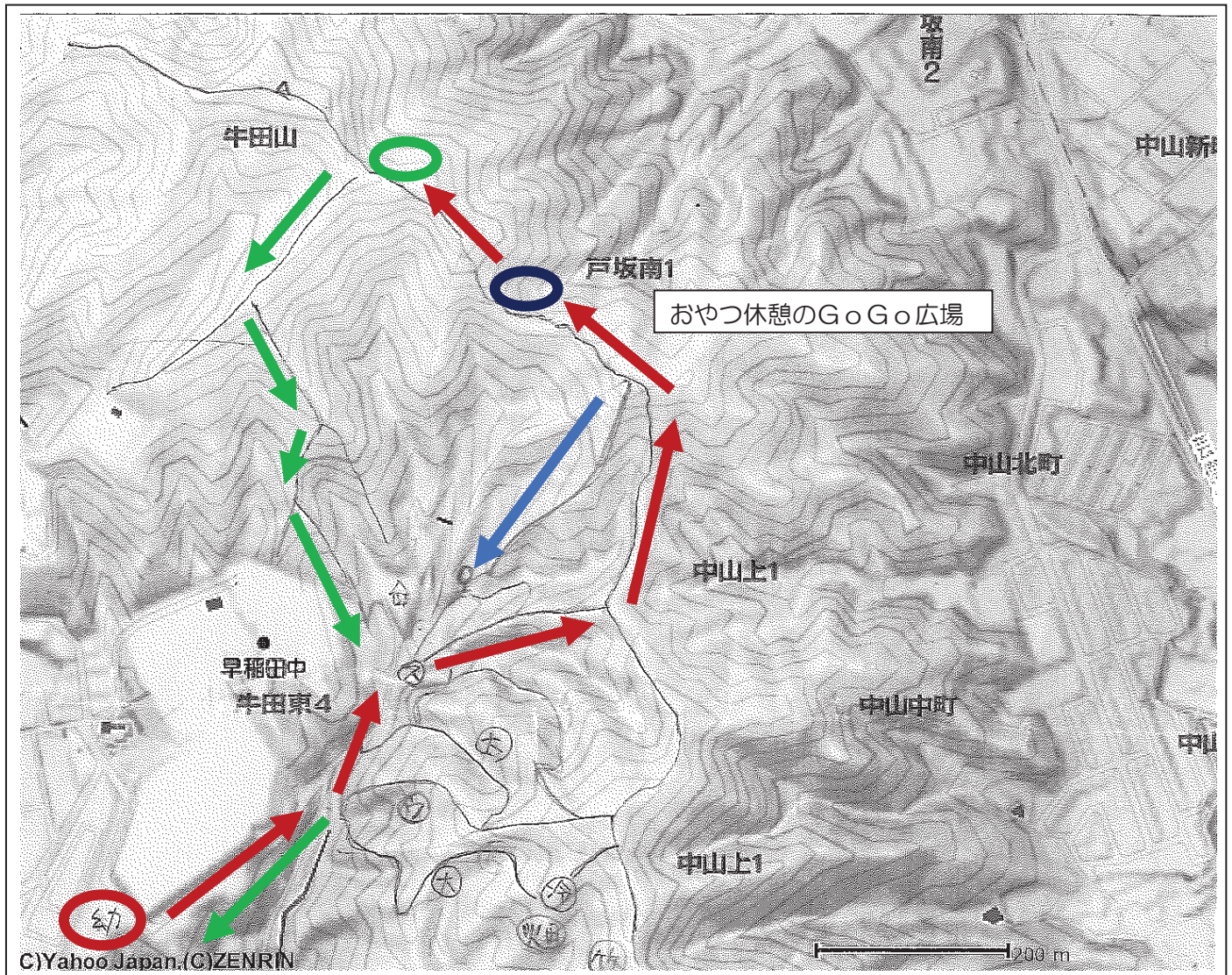
## ④ 目的地、昼食～下山




『G○G○広場』から縦走ルートを歩くこと20分、今回の目的地へと到着。山頂へのアタックは、2回目に持ち越し、モチベーションを高く維持しておく作戦。異常な寒さのため、じっとしているだけでも凍えてしまいそうだったので、おにぎり弁当を頬張った子から、動き回って暖をとる、予定より30分早く下山することとした。帰りのルートは早稲田中学直行ルートで、復路はとても速く感じた。少し物足りない感が残る子もいたが、その分次回への意気込みが熱くなるのを感じた。





-  往路
-  復路
-  緊急下山ルート



-  幼稚園
-  おやつ休憩ポイント GoGo 広場
-  昼食ポイント Uターン広場



## 2017 年度年長第 2 回牛田山登山遠足 活動報告

日 時 2018年2月27日(火) 快晴

幼児の姿 ・第1回目の登山で、小さな自信と仲間と支え合うことの大切さを心と身体で感じ取っている。  
・今度こそは山頂にたどり着くぞという意気込みを抱いている。

ね ら い ・前回よりも春の足音が大きくなっていることに気づく。  
・自分たちの力で頂上まで登った達成感を味わう。

活動内容 ・菊間さんのガイドで目的地をめざして歩いて登る。  
・山頂でおにぎりを食べる。  
・山頂からの島波、自分たちの住む街並みを見下ろし、園や自分の住まいを探す。  
・遺跡(貝塚)についての話を聴く。

### 事前準備と配慮

- ・事前に下見をし、前回とは異なるルートを選択する。ゴミ拾いや必要最低限の飛び出した枝や根っこを切るなどして当日子ども達が安全に通れるようにしておく。また、咲いている花や葉や木の実やイノシシの掘った跡など様々なことを事前に把握しておき、歩きながらその都度紹介できるようにしておく。
- ・山道での子ども達の様子を予想し、休憩ポイント・おやつポイントなどを決めて準備をする。
- ・目的地で自由に遊ぶ範囲や伝える注意事項などを予め決め、保育者みんなが理解しておくようにする。
- ・当日の持ち物や服装など、保護者に状況が分かりやすいよう手紙で知らせる。

準備物 救急道具、ポイズンリムーバー、虫刺されの薬、着替え(パンツ、ズボン)、タオル、ティッシュ、携帯電話、水(手洗い、傷の洗浄他、ペットボトル2ℓ×2本)、予備の飲料カメラ、袋(ゴミや拾った木の实などを入れる)、虫よけ、おやつ(あめ)

参加人数 そら組28名 つき組26名 ほし組28名 計82名(欠席なし!)

引 率 担任3名、高田園長、岡野(ほし)、石川(そら)、小原(つき)

園児各自の持ち物 昼食(おむすびのみ)、お茶の入ったペットボトル(リュックに入る大きさ)、おてふき、タオル、ビニール袋、

服 装 長袖、長ズボン、帽子(全て黒っぽくないもの)、歩きやすい履きなれた靴、タオル



「のぼったぞー！」山頂にて

プログラム

時間	活動内容	備考	
9:20	登園・荷物確認	準備体操 横沢	
9:45	集まり（2便の子どもたちを迎える体制・排泄） 全員集合 お祈り・注意事項確認		
9:55	幼稚園出発 登山口へ		
10:10	登山口着（牛田山荘下、早稲田中学校ルート） 牛田山登山スタート クラス毎に歩く（ほし→つき→そら） 途中1箇所の休憩ポイントで休む、 お茶を飲む、おやつを食べる （どんぐり拾い）		
11:20	牛田山系最高峰茶間山登頂 写真撮影、景色を眺める（周りを散策する：遺跡「貝塚」） トイレ		
11:40	昼食（おにぎり・お茶） クラス毎で食べたら遊ぶ、		
12:25	下山準備（荷物確認） 下山スタート（ほし→つき→そら）おやつ：あめ		歩きながらのあめは危険！Rくんが 飴を誤って飲み込み、一時呼吸困難に
13:15	幼稚園到着		



休憩ポイント Uターン広場



## 当日の様子

### ① 出発



今日こそ牛田山を制覇するぞ！えいえいおー！！

### ② 登山道入り口から藪漕ぎ

今回は山頂に最も近い早稲田中学校ルートに登るが、急斜面であり、道なき道のため、幼児の胸まである藪を漕いでいく。今回は天気にも恵まれ、そんな困難なルートも、不安な気持ちにはなることなく、楽しみながら気持ちも明るく軽やかに進んでいった。曲がりくねった木々を見つけて、「いったいどうしてこんな風に木が育つんだろう？」と不思議がる姿も見られた。

### ③ 縦走登山道、休憩タイム

登山道入り口からひたすら上ること 40 分、ようやく獣道から人が歩くために整備された牛田山系縦走登山道に出た。子どもたちは「あー、らくちん」とうたいながら走っていく。途中、用を足す（お花摘み）子どもたちは、ルートからそれ、他児からは少し隠れた藪の中に消えて、用が済むとまたみんなの群れに戻るといった動きを自然に身に付けていた。なんともたくましく育ったものだ。

### ④ 登頂！

幼稚園出発からおよそ 1 時間半。やっとたどり着いた山頂からの絶景に息をのむ子どもたち。宮島も、安芸の小富士（似島）も、遠くは屋代島（周防大島）も視野に入るぞ！先に登った子どもたちは、後から到

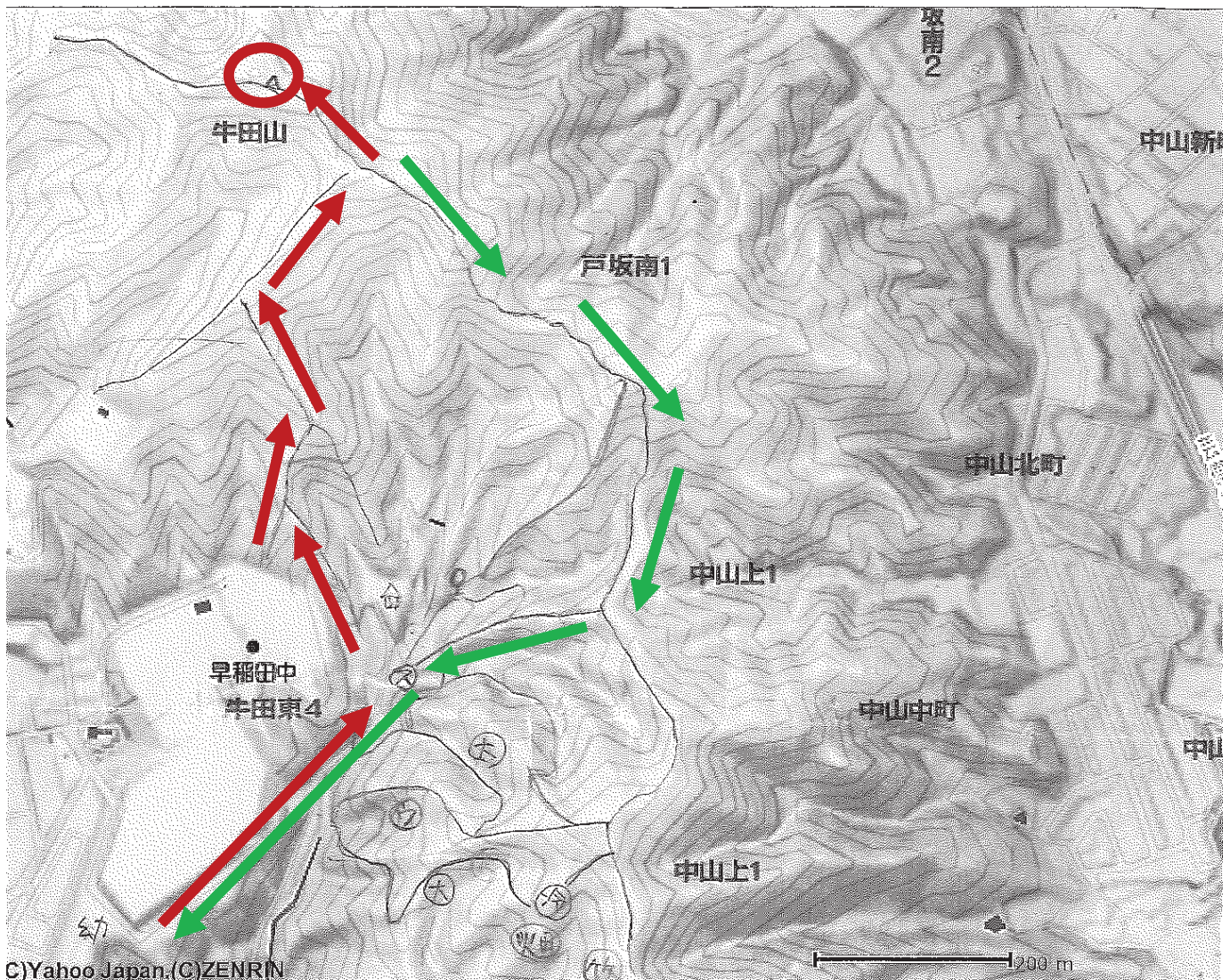


着する子たちをハイタッチで迎える。みんなで念願の「頂上でおにぎり！（♪1年生になったらの 100人で食べたいな、富士山の上でおにぎりを♪ならぬ、牛田山の上で82人でおにぎり！）」なんておいしいんでしょう。



山頂の広場で貝殻拾い（貝塚周辺にて）、影踏み、そして記念撮影。

⑤ 下山～幼稚園帰着



→ 登りルート  
← 下山ルート







## 2017 年度年長第 3 回牛田山登山遠足 活動報告

日 時 2018年3月9日(金) 計画段階では雨天中止 → 少雨決行 少雨のため牛田山山頂～早稲田小学校を目指さず、そのすそ野のぼうけんのもりの中だけで思いっきり遊ぶこととした。

幼児の姿 ・就学を間近に控え、自信をもって園生活を楽しんでいる。  
・ぼうけんの森での活動や、牛田山登山を重ね、毎日自然に親しみ、様々な興味・関心をもって過ごしている。

ね ら い ・園生活でほぼ最後のたっぷりと自然の中に包み込まれて過ごす一日、心も身体も開放してゆったりと楽しむ。

### 事前準備と配慮

- ・事前に下見をし、子どもの体力に合わせたルートを決める。ゴミ拾いや飛び出した枝や根っこを切るなどして当日子ども達が安全に通れるようにしておく。また、咲いている花や葉や木の実やイノシシの掘った跡など様々なことを事前に把握しておき、歩きながらその都度紹介できるようにしておく。
- ・山道での子ども達の様子を予想し、休憩ポイント・おやつポイントなどを決めて準備をする。
- ・道沿いに育っていた木の実などを拾って帰り、紹介したり飾ったりすることで子ども達が自分達も行くことを楽しみに待てるようにする。
- ・目的地での注意事項などを地図にして予め伝え、子ども達が楽しみながら気をつけられるようにする。
- ・当日の持ち物や服装など、保護者に状況が分かりやすいよう手紙で知らせる。

園児各自の持ち物 昼食(おむすびのみ)、お茶の入ったペットボトル(リュックに入る大きさ)、おてふき、タオル、ビニール袋、

服 装 ・長袖、長ズボン、帽子(全て黒っぽくないもの)、歩きやすい履きなれた靴、タオル

準 備 物 ・救急道具、ポイズンリムーバー、虫刺されの薬、着替え(パンツ、ズボン)、タオル、ティッシュ、携帯電話、カメラ、袋(ゴミや拾った木の実などを入れる)、虫よけ、おやつ(焼き菓子)

活動内容 ・菊間さんのガイドで、ぼうけんのもりだいぼうけんのもりの様々な場所で思いっきり遊ぶ。

予定人数 そら組28名 つき組26名 ほし組28名 計82名

引 率 担任3名、高田園長、岡野(ほし)、石川(そら)、小原(つき)



## プログラム

時間	活動内容	
9:20	登園・荷物確認	
9:40	集まり（2便の子どもたちを迎える体制・排泄）	
9:50	クラスにて集合	雨のため牛田山山頂～早稲田小学校を目指さず、そのすそ野のぼうけんのもりのみで思いっきり遊ぶこととした。
10:05	お祈り・注意事項確認 雨天であったが中止とせず、少雨だったので、幼稚園周辺のぼうけんのもりで遊ぶこととした。	
	幼稚園出発 ぼうけんのもりへ	
	・ほしの谷 菊間さんと一緒にロープを張り、ブランコやターザンロープで遊ぶ	
	・かずらの谷 一本橋渡り、かずらのブランコで遊ぶ	
	うりぼ野原 ウラジロの葉っぱでグライダーやバッタをつくって遊ぶ	
	・クネクネクロキ 木登りに挑戦する	
11:20	お茶を飲む、おやつを食べる	
11:40	昼食（おにぎり・お茶）おやつ：あめ	昼食は屋根の下で食べることとし、園のテラスへ
12:00	クラス毎で食べたら遊ぶ	
12:30	保育室へ戻る	

### ① 雨天時の判断

牛田山頂からいつもとは違う下山ルートで下りると、そこには広島市立早稲田小学校があり、その裏門から入校し、今年度重ねてきた幼小連携の最終プログラムとして、また最後の牛田山登山で小学校に到着することは、物理的・心理的に幼小が接続していることを体感するという意味において、最も重要な目的であった。しかし、朝からの少雨、卒園礼拝を間近に控え、インフルエンザをはじめ年明けから様々な感染症に罹患して欠席が多かった年長児たちの健康を最優先に考え、第3回牛田山登山は中止とし、菊間さんと一緒にぼうけんのもりでとことん遊ぶことに切り替えた。少雨であっても、ぼうけんのもりの中は木々が傘となって直接雨が子どもたちに降り注ぐことはなく、カッパや撥水性の上着を着込んでいる子たちは、雨を気にせず遊べる程度の降雨であった。

### ② ほしの谷での活動

これまでも、菊間さんと子どもたちの思いを重ねあわせながら森の木々にロープを張り巡らし、遊び場を作ってきたが、この日はたつぷりと自分たちのホームグラウンドで、菊間さんに新たな個所にロープを張ってもらったり、木の枝を集めて基地づくりを楽しむことができた。

### ③ かずらの谷での活動

かずらの谷では、せせらぎにかかる丸太の一本橋渡りに挑戦する姿が見られた。足場に不安を覚える子たちは、どこからか他の丸太を引きずってきて、一本橋を二本、三本に増やして渡りやすくしようとしていた。

太いかずらのつるに座ってブランコやターザンごっこを楽しむ姿も見られた。

### ④ うりぼ野原での活動

日頃なかなか踏み入れることのないうりぼ野原には、ウラジロの群生があり、それがイノシシの身を隠す場所ともなっている。冬場でも活動しているマダニもいることを想定しつつ、やぶ漕ぎしながらウラジロノ葉（小枝？）を採取し、左右のバランスを整えて「グライダー飛ばし」を楽しんだ。



うまく飛ばないグライダーは、軸と両先を折って葉をむしり、「バッタ」を作ることに夢中になっていた。

⑤ クネクネクロキ

うりぼ野原のさらに奥地に生えている「クネクネクロキ」に会いに、菊間さんと一緒にミニ探検隊を結成して出かけた子どもたち。クネクネクロキのある谷は、大学施設に落ち込んでいる崖が近くにあり、子どもだけでは危険だと感じていたが、菊間さんが同行することで大きな安心感があった。クネクネクロキの生えている谷筋に到着、見たこともないようなクネクネの枝に目を見張り、しばし立ち尽くしていたが、果敢にもその幹にしがみつき、何度も滑り落ちながらもついには一番下の枝の上に登ることができた。卒園までに制覇したかった森のゾーンだっただけに、子どもたちは大変充実感・達成感を覚えているようであった。

